

2022 アートマイル国際協働学習プロジェクト 報告書

日本学校名 [クラーク記念国際高等学校東京キャンパス]

担当教諭名 [Peter O' Connor] (インターナショナルコース 30名)

相手国・地域 [パキスタン]

海外学校名 [Mansehra Public School & College] 担当教諭名 [Umar Gul Khan Muhammad]

■実施教科・時間数について教えてください。

アートマイルに関連した 実施教科・時間数	教科	単 元 名	時間数
		異文化理解	Genderについて考える

■作品に込めた想いについて教えてください。

題 (テーマ)	Gender Equality (性の平等)
メッセージ (相手と想いを合わせて 世界に発信したいメッセージ)	男女平等はまだ達成されていません。労働力のすべてが評価され、保護されるようにするためには、もっと多くの仕事をする必要があります。世界には、他の地域よりも苦勞している地域があります。しかし、私たちが黙っていても、変化はありません。
 	

■今回の取り組みの成果と課題はどういった点でしょうか？

成 果	課 題
異文化との交流は素晴らしい学びでした。教育によってのみ、大きな変化が起こることを理解します。現状を理解する人が多ければ多いほど、変化への希望が持てました。	生徒たちが高校を卒業し、社会に出て、自分の能力を最大限に発揮して仕事をする時に、未来が平等であるようにするにはどうすればいいのだろうかという点について、もっと相手国と深く議論できるようにすれば良かったです。(調べ学習と共有がメインになってしまったので)

■アートマイルに取り組む前と比べて相手の国・地域や世界に対して意識はどう変わりましたか？

児童生徒の意識の変化	教師の意識の変化
多くの人々がいかに苦勞しているか、より深く理解することができました。そして、ここ日本が比較的平等な社会であることが、どれほど幸運なことかがわかりました。	変化しようとする社会に身を置いていることが、いかに幸運であるかを再認識させられます。まだまだ先は長いですが、少しずつ変わって欲しいです。

■主な活動の流れを教えてください。

場面	時期	活動内容	児童生徒の反応	実施教科等
調べ学習 テーマ学習	5月	パキスタンを知る。日本について学ぶ。2つの文化・社会の比較をする。	世界の他の地域の平等への対応に若干のショックを受けていました。	外国語 12
共有 相手と意見交換	9月	パキスタンの学生が共有する真実とその生活状況を理解すること。	学生たちは、これをとても楽しんでいました。他の人と会う機会を持つことは、いい刺激になりました。	外国語 8
融合 メッセージ作成	10月	実際の作品に関連する議論や、オンラインでの打ち合わせで、外国でのリアルな生活を体験することができた。	生徒たちはとても恥ずかしがり屋で、積極的に発言するのは数人でしたが、全員がとても注意深く話を聞き、後日クラスでその会議の内容について話し合いました。	外国語 8
創造 壁画制作	11月	話し合った内容に基づき、デザインをし、壁画を仕上げる。	すべての生徒がアクティブだったわけではありませんが、ほとんどの生徒がアクティブでした。創造性を発揮するチャンスは、とても楽しくできました。	外国語 18
評価 振り返り 自己評価	2月	返却された壁画を見て、活動の感想を述べた。個人発表。	すべての生徒がアクティブだったわけではありませんが、ほとんどの生徒がアクティブでした。	外国語 2

■アートマイルでついた力について教えてください。

評価（5:とてもついた 4:ついた 3:どちらともいえない 2:あまりつかなかった 1:つかなかった）

学習目標・つきたい力	評価	教師がそう感じた場面と理由
異文化・自文化を理解する力	5	これまで文化を学ぶことができたので、こうしたテーマや考え方を見直すことは、とても満足のいくものでした。学生たちも大きな満足感を得ていました。
主体的に考え行動する力	3	学生たちは、題材やテーマについて調べるのに少し時間がかかるので、少し戸惑うこともあったようですが、おおむね熱心な様子でした。
批判的に思考する力 (客観的・論理的視点)	3	上記の回答と同様です。題材やテーマについて調べる時間がもう少し必要なので、少し戸惑うこともあったようですが、おおむね熱心な様子でした。
多様な他者と対話・協働する力 (海外の相手と対話・協働)	5	これは、学生たちにとって大きな学びでした。異文化の人たちと話すのは初めてという人もいたかもしれません。生徒たちは、このプログラムの中で、とてもやりがいのある部分だと感じていました。
想いを言葉や形にする力 (メッセージ作成・壁画制作)	3	これは、私たちが実践しなければならないことです。最終的な結果は悪くなかったのですが、生徒がもう少しアートを理解していれば、これは素晴らしい表現になったはずでした。